

福竜丸だより

発行
(財)第五福竜丸平和協会
〒136 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494

今回公開されたピキニ水爆実験「死の灰」被災をめぐる外交文書に目を通したとき、「ああ、やはりそうだったのか」という思いがした。

一九五四年春から夏へかけて焼津に大きく盛り上った原水爆に対する怒りや久保山さんははじめ福竜丸の乗組員への同情は、秋から冬へかけ補償金の問題をめぐって、急速に妬み、羨望にすり替えられていった。それは福竜丸の乗組員を市民から切り離す分裂の役割を果した。当時焼津中学校に勤めていた二四歳の新米教師の私でさえ、そこでこの歴史的事件を忘却の彼方へ追いやり、できればやみに葬むろうとする政治的意図を感じた。「久保山さんの死に対する怒りや原水爆に対する憤りを補償金問題にすり替えようとするマスコミのやり方はまちがっている。故意に補償問題を前面に出し原水爆問題を日本人の良心に従つて取り上げようとしたしないのは、何らかの圧力があつたのではないか」と私たちは職員室で話し合つた。

特に今回の外交文書を読んで強い憤りを覚えたことの一つは、機密保持のためアメリカ政府が第五福竜丸を沈め

外交文書の公開と第五福竜丸

飯塚利弘

よう（又は立ち入り禁止）としたこと、それに日本政府が追随（積極的に解体の方向で）したことである。一九五四年八月五日、焼津港改良落成式に参加した焼津の一中学生は福龍丸に温かな目を向けて書いている。「（隔離され）ただ一船で港の落成式をしょんぱり見ている第五福竜丸。船の中は赤さびが目立っている。なんとなくみな福龍丸の事を忘れてきたようだ。そこを通つても何も考えずに行つてしまふ。そういう人を見ていると、とても気がいか

その福竜丸は政府に買い上げられ、八月二二日海上保安庁の巡視艇に東京へ曳航され焼津港から姿を消した。現在水爆被災の生き証人である第五福竜丸を、これを消し去ろうとしたアメリカ、日本政府の意図から守り抜いて、見事に東京夢の島に甦らせたことの意義はまことに大きい。

私たちは今回の外交文書の公開を歓迎するもののだが、これを単に過去の吟味だけに終らせてはならないと思う。核兵器廃絶の実現という戦後史のかつてない大きな転機の中で公開されたこの文書の内容は今日的意義に溢れている

第五福龍丸平和協会評議員

ビキニ事件に関する外交文書、三十七年目に公開

極秘の電報に新たな衝撃

十月二十五日 ヒキニ事件に関する外交文書が公開されました。三千七百ページに及ぶ文書の中に、は、当時の岡崎外務大臣と井口駐米大使との間に交換された極秘の公電、アリソン駐日大使、外務省アジア局の秘密文書が多数含まれており、第五福竜丸船体の処分死の灰の敵重保管、分析結果の公表への検閲の要求など、機密保持と、日米関係の悪化をおそれ事件の早期解決に躍起となつた日本

政府の姿勢が浮き彫りにされています。事実そのものは既に明らかにされていたものが多いとはいえ、あらためて極秘の印が押された文書で裏付けられると、強い衝撃と、国民の生命と安全より、水爆実験を容認し、対米関係を優先させた政府の対応に、怒りを感じます。二百万ドルの慰謝料で、法的責任と関係なく最終的決着をはかった日米交換公文の発表にいたる

ながら、アメリカの責任を厳しく追及しない対応ぶりを余すところなく語っています。

水爆実験被災船に関する報告や外務省古内参事官の生ま生ましい焼津報告などもあり、ビキニ事件の全容を解明していく上で重要な資料となっています。また、当時の意見書、陳情書も多数含まれていて貴重です。

文章の一部分に削除の跡がみられたり、被災船の全容をしるした

卷之三

新しく完成した展示館のポスター　　判全紙大で、縦と横の二種
ストカードは三種類です。
見つめる少年のまなざしが
うに印象的な横長のポスター
首のきつ先きと少女の正面
組み合わせって強い訴えを
示す縦長のポスターと
余白をたっぷりとつて
思わずはっとする鮮烈
な構成です。モノクロ
のすつきりとした写真
に「原水爆のない未来
へ——第五福竜丸展示
館」の文字が新鮮な感
じを与えています。
いま各地の学校へ、

展示館をぜひ訪ねて下さいとのお願いをつけて送られています。学校からの来館が多くなっているこの頃、ポスターはさらにその輪を広げることでしょう。ポストカードも、募金のお礼や見学への訴えなどに使われます。

写真展の開催も

ポスターの完成を記念して、十一月二十六日から年末までの一ヶ月間、展示館で写真展「原水爆のない未来へ——船を見つめる子どもたち」(写真・英伸三さん)が開かれることになりました。

●ポスター、カードをご希望の方は協会まで。

百万円の寄付
三宅泰雄前会長が亡くなつて日
や一年。十月十六日の一周忌を記念
にした十月九日、三宅すず夫人が大
展示館を訪問、感慨深げに船を自
つめられたのち、協会の発展のため
めにと百万円の寄付と贊助会費五
十万円を贈られました。

厚生省の報告書が未発表のままになっているなど問題も残しています。文書公開までの一ヶ月、協会には報道関係者の取材、問い合わせが相次ぎました。テレビ、新聞各紙が大きく報道しましたが、翌展示館の載った新聞を持参し、「軒が保存されてよかつた」と話しかける人もあるて、反響が大きかったです。ナリストの尽力で、文書全体が資料として協会に提供され、いまこの再検討が進められています。

愛吉さんの碑には、次のような遺言が刻まれている。

「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい——怒りと哀しみの海から全人類へ遣された、肅然たる祈りの詞として私は訓む。」

夢の島は東京湾の最奥に在る。これに対して、広い湾の入り口に突き出た三浦半島の觀音崎にも、太平洋の永遠の平和を誓つて祈る記念碑が建つてゐた。觀音崎の丘の上は海辺公園になつてゐるが、その公園の一隅にある「戦没船員の碑」がそれである。黒御影石の碑石は高さが約一メートル、幅が八・五メートルと横に長大なもので、碑面には次の言葉が刻まれてゐる。

「安らかにねむれわが友よ　波静かなれとこしえに」

第二次大戦の期間に犠牲となつたわが国の商船の船員は実に六万人を超す。碑はそれらの海靈にさ

祈りの海の碑に

岬の丘の公園は、ふだんは訪れる人も少なく、このような祈りの海の碑があることも一般にはあまり知られていないようだ。地元の人横須賀あたりの人ですら、知らない人が多いという。

あの戦争で民間の商船はほとんどが軍部に徴用されて軍事輸送船となり、防備の武装もない丸腰の船で戦火の海の最前線へ送り込まれたのだった。その結果、終戦までに二五〇〇隻余が撃沈あるいは破碎され、日本商船隊は潰滅、ぼう大な数の船員（非軍人）が海のもずくとなつて消え去ったのだつた。

もちろん、戦場へかり出されたのは商船だけではない。第五福竜丸と同じような遠洋カツオ・マグロ漁船が大量に徴用されていた。

島付近までの、広大無辺な洋上に
ばらまかれ配置された非力な哨戒
艇は「敵機動部隊ヲ発見！」の無
電を最後に消息を絶ってしまうな
ど、悲痛な末路をたどった船が多
い。しかも、黒潮部隊の実数や犠
牲となつた漁船員の正確な統計は
今日でもなお判然とはしていない。
船員は世界の海を職場としてい
るから、戦後の時代になってから
発生した他国の戦争も無関係では
あり得ない。朝鮮戦争、ベトナム
戦争、イラン・イラク戦争、そし
てこのあいだの中東湾岸戦争。そ
れらの海域へ就航していた日本船
の乗組員には死傷者も出でている。
ところで、ペルシア湾へ派遣さ
れた海上自衛隊の掃海艇部隊が先日
帰国していた。政府の三百代言も
どきの憲法解釈で国際貢献という
美名のもとに実施された掃海艇派
遣の真の目的は、海外派兵への道
づくりにあつたとの疑念は消えな

黒潮音陽と称されたこれらのは漁船群には、『特攻哨戒隊』の別名もついていた。本土から遠くはなれた洋上で、接近するアメリカ機動艦隊を哨戒・監視するのが彼らの任務だった。

あれは いつか見た光景ではなかつたか。そうだ、かつて大日本帝国の軍港で演じられていた光景だった。そして軍艦マーチと歎呼の声の彼方に、輸送船や黒潮部隊の悲劇が用意されていたのではないか。掃海艇派遣の問題が論議されていたころの新聞社の世論調査では、派遣に賛成する者が反対をわずかながら上回っていた。この国の人びとの歴史に対する健忘症ぶりか、「過去に目を閉ざす者は結局のところ、現在にも盲目となります」といってるのはドイツのヴァイツゼック大統領だったが、太平洋に眠る海霊たちもこんな祖国の現状に、とても安らかに眠れないだろう。（作家）

い。四月の掃海部隊の出港風景
そして先日の帰国の際の出迎え風
景もテレビで放映されたが、埠頭
をゆるがす軍艦マーチにはためく
軍艦旗。出迎えはさながら凱旋部
隊を歓迎する歓呼の声……。

一九四五五年、終戦の年に生まれた私は一九五四年、ビキニ事件の年は九才であった。

「雨にうたれたら頭がはげるぞ」という言葉と魚肉ハムソーセージをおやつがわりに食べだしたこと以外は、この事件に関わる記憶はない。しかし、今思えば、私の育った高知県宿毛市にある片島漁港には、小型マグロ船が寄港していく。私の家は駄菓子屋だったが時折、両手で下げる程の菓子を買っていく得意客が“しびなわ”と呼ばれたマグロ船の乗組員だった。船上にいた“かしき”と呼ばれた中学生ぐらいの年からこうの炊事係の乗組

ミの現代史調査がはじまつた。
一九八五年、広島・長崎の被爆四〇周年の年、幡多ゼミは地域の被爆者に聞き取り調査を始めていた。この時、宿毛湾の内外ノ浦にひっそりとくらしていた藤井馬さん（83才）という被爆者の方に出合つた。

馬さんは、長崎での被爆体験を語つてくれたあと、自殺した息子の節弥さんについて語りはじめた。「私の息子・節弥はマグロ船に乗つてビキニへ行つていたそうです。本人が私にそう言いました。ビキニの海図を持ち帰つて、それを見せながら『自分たちの操

れており、乗船のたびに寄せられた馬さんあての手紙には、ビキニ事件にふれる記述は見あたらなかつた。たつた一つだけ、気象図の中に「百屯の航洋船デハクリスマス島水爆ニハ関係ナイガビキニハ大イニ関係アル サモア船団ニア少シ位 被害ガアルカモシレヌ」と赤インクで記された記録が見つかつた。

□数の少ない若きマグロ漁民が書き残したこの言葉が、高知から全国へビキニ被災船追跡を再開する火種となつた。

(高知県ビキニ水爆実験被災調査団員)

ビキニの海は忘れない ①

七

マグロ漁民の死

山下正泰

員がいて朝早くから七輪で火を焚いている姿を今もはっきりと覚えている。

業していたところはビキニの近く
だったので、第五福竜丸と同じよ
うに死の灰を浴びてしまった』と
いっていました。あの子は長崎で
も被爆していたので、ビキニで再

聞き流されなかつたのは、馬さんの被爆者としての生き方が関つていた。馬さんは、いつも高校生たちに「あんたらに や時間があるけん、一生懸命勉強せなへんよ」